

漢字簡略化の“大躍進”

伊 井 健 一 郎

はじめに

本年1月9日付『毎日新聞』は、香港特派員の「略字の乱造批判」と題する記事を掲載した。副題の「文革で急増2,300字に」は、しかし事実と反する。「文革」は、66年から76年までの期間を指す。そして2,238字の「簡化字総表」が公布されたのは、1964年であった。77年12月の第二次漢字簡化方案(草案)も必ずしも紅衛兵の「乱発」したものとは限らない。

建国初期つとに、毛沢東は指摘している：¹⁾ 漢字の数量も大いにへらさなくてはならない(簡縮)。形体上および数量の面から同時に簡素化して(精簡)はじめて、簡略化といえる。漢字の簡略化は、とりわけ「世界共通の表音文字の方向を歩むための準備をしている」のであり、「当面の応用に便利なように適切な措置として」²⁾位置づけられている。

1956年に「漢字簡化方案」が公布され、64年の「総表」が今日まで通用している正字である。それ以降、全国の各分野からあたかも、第二次草案に向けるかのように、種々の貴重な意見が出された。今日、第二次草案は試用停止になっているが、今一度当時提起されたいくつかの意見を列挙して考えてみるのも、まんざら無意味とは思えない。

I. 同音代替, 同音仮借

形声字は、甲骨文のときには20%に至らなかったが、現在漢字総数の90%以

注1) 『漢字的整理和簡化』, 文字改革出版社, 1974年, 38ページ。

2) 徐仲華「読第二次漢字簡化方案(草案)」, 『中国語文』1978年1号, 65ページ。

上を占めている。³⁾しかし簡略化において、そして字数の精選において、同音代替の果す役割は大きい。まずこの方法についてふり返ってみよう。

1. 簡体字、同音代替字は、唐宋以来の漢字発展の主要な内容であった。それは民間に大量に出現し、社会の底辺でのみ流行した。これらの漢字発展の新しい要素は、文字が人民大衆の創造であることを証明している。民衆の創造した同音代替字には、面(麪)、几(幾)、汗(漢)、同(銅)、姜(薑)等がある。⁴⁾

2. 同音仮借の方法で、漢字の数量を精選する。⁵⁾現在、同音仮借の方法は、大衆の間で流行している。電気工は插座のことを叉坐と書き、農民は插秧を叉秧と書く。人々はソケット、田植えをする、とその意味がわかり、誤解は生じていない。鲤鱼、慳吝、彗星等は、同音字で代替できる。これらの字は、わずかに複音節複合語の中の語素であり、語をはなれるとこの字はその意味を失う。里鱼、千吝、会星と書いたとしても、誤解は生じない。また蟋蟀、蚯蚓、葫芦、鞞鞞等を悉率、丘引、胡卢、兀拉と改めても悪くはない。(注：①は第二次草案第一表に登場したことを示す、以下同じ)。

3. 意味の混同を起こさないとの前提のもとで、斗(鬥)、午(舞)などを採用する。⁶⁾音の近い字が同音字でないものもある、たとえば人々は、桔で橘に代えている。(本来前者は jié 後者は jú と発音する)。使うのに便利であり、字句の構造上意味の混同が生じないのであれば、このような方法もよい。桔子汁儿(オレンジジュース)と『人民中国』(86年1月号)の旅行会話篇にも紹介されている。桔はここで一字両読となる。

4. 兰(藍、籃)、午、令(齡)、迂(遇)などは、実際に応用するとき、単独で現われることはほとんどなく、その他の字と一緒に使われるから、意味上の混同は起きないであろう。兰花、兰天、兰球、中午、午蹈、命令、年

3) 『光明日報』1977. 9. 22.

4) 王伯熙「孔老是反对漢字改革的祖師爺」、『深入批林批孔促進文字改革』1974年、24ページ。

5) 撫順電器設備廠張勝林「採用多種方法簡化漢字」、前掲『漢字的整理和簡化』。

6) 国朋「談群衆簡化漢字的方法」、同上書14ページ。

令，迂回，遭迂などの例である。⁷⁾

5. 余分の同音で、意味の近い字をまとめる。たとえば杆は木製の杆であり、竿は竹製の杆であり、秆は作物の杆を表わしている。また疙瘩は、皮膚にできた疙瘩を表わし、圪塔は泥土の疙瘩を表わし、圪达は糸あるいは太なわの疙瘩を表わし、咯嗒は粉食品あるいは野菜の疙瘩を表わすが、これで三種類の gēda を代表させる。(注：②—1 は第二次草案の二表を表わす、以下同じ)。木製の杆を木杆と言ひ、竹杆、稻杆、麦杆などと呼ぶ。それらのちがいは、すでに語によって表現されており、文字記号上で区別する必要はない。⁸⁾

56年公布の方案の中で、簡略化された544の繁体字のうち、104字は同音代替の方法でなされた。今なお大衆は、この方法を用いて簡略化を行っている。たとえば太 (泰)，元 (圓)，午 (舞)，兰 (籃，藍) 等。

6. 球形で隆起したものは gēda というが、この言葉はその用途が広い。土 gēda，山 gēda，皮膚 gēda，线 gēda，面 gēda，菜 gēda……など。話しことばでは、完全に同音であり、意味も同じだが、漢字の書き方がちがう。

ものの端を shāo というが、木の場合梢と書き、船では艖と書く。

主体から分かれたのを chà というが、河流では汊，木では杈，衣服では衩と書き、少し広く使われるのは岔であり、岔路，打个岔などという。こうした例の漢字を書くときの区別は、不必要であり不合理であり、とり消すべきである。⁹⁾

人々は漢字の形旁（意符）の束縛を打ち破り、大胆に同音仮借を用いているが、これは支持され賞賛されるべきである。例：泰县→太县，纛→勾，韭菜→九菜等。

7. いわゆる同音字の合併とは、同じ声母，同じ韻母，同じ声調の一組の字をその中の一つあるいはいくつかから残し，その他の字をへらすのである。一漢字は口語の一音節を代表し，共通語には1,300ぐらいの音節があるだけだ。

7) 青海省西寧市第一中学林西「簡化漢字要多用同音假借的方法」，同上書25ページ。

8) 丁川「漢字字数必須進一步精選」，同上書46ページ。

9) 南京大學中文系語言教研組「從語言和文字的關係看漢字整理」，同上書49ページ。

たとえば文, 蚊, 雯, 蚊, 蚊, 闻, 阍, こうした同音字の組 (声母 w, 韻母 en, 声調陽平) は, 一定の原則¹⁰⁾にもとづいて, そのうちの一つあるいはいくつかを残し, その他のいくつかをへらす。

1) 用法の異なる同音字は合併できる。たとえば扁, 匾の二字は同音で, 扁は形容詞であり, 句の中では通常, 修飾語, 補語, 形容詞性述語となる。

- a. 我把扁锉递给李师傅。(私は平やすりを李師匠にわたす)
- b. 不要把字写扁了。(字を平たく書くな)
- c. 钢板扁而平。(鋼板は平たく薄くてしかも凹凸がない)。匾は名詞で, 文中では通常主語, 目的語となる。
- d. 这块匾是送给军属的。(この扁額は軍人の家族に送ったものである)
- e. 用金子写匾。(金で扁額を書く)

この例から, 二つの占める語法上の位置はお互いに異なる。こうした状況下では, たとえ扁と書いても, その意味は誤解を生むことがあり得ない。

①
また太泰馱の三つの同音語のうち, 太は副詞で, 泰は文語で一般に成語に残っているのみである; 馱は名詞であり主語か目的語として有機化合物の一種などと用いられる。これらを太と書いても意味のちがいは起こらない。たとえば吁, 狩, 柠の三字は, いずれも語素であり, それはそれぞれ別の語素と結合して, 叮吁, 狩狩, 柠檬となつてはじめて語といえる。もしも宁と書けば, このような多音語は, 具体的ことばの環境の中で, その意味の理解に影響せず, たとえ孤立して書いてもその意味のちがいは起こらない。

2) 用法の同じ同音字は, 一般に合併できない。

- a. 这个洲人口稠密。(この中州は人口が稠密だ) 州 (zhōu)
- b. 湖里水满了。(湖は水がいっぱいになった) 壺 (hú)
- c. 你采什么啊? (君は何を採集するのか) 踩 (踏む) (cǎi)

3) 古音のちがう字は, 一般に合併できない。¹¹⁾ 茶と察, 慎と蜃など。

10) 王克仲, 管燮初, 麦梅翹「通用漢字的數量能否簡縮一半?」, 同上書55ページ。

11) 南京師範學院張蘊「对同音字去留原則的意見」, 同上書67ページ。ここで同音字の合併は, 古音を考慮すべきでないとする。

8. 意味が近く、一般大衆が使いにくい同音字は合併できる。¹²⁾

績，积は积に合併できる（成积，积累）

辑，集は集 〃 （編集，集体）

渺，藐，秒は秒^{②-1} 〃 （秒小，秒视，分秒）

撵，赶は赶^{②-1} 〃 （赶面，追赶）

unnecessary 偏旁はなくしてよい。簡略化された字をあげてみる：包伏，告戒，^{②-1} 遣责；雷廷，辟历；习贯，丘引，科斗，离巴，罗匡；波罗，胡卢；沙鱼，卢^{②-1} 鱼，里鱼，嬰武，路丝，宁蒙，宾郎；卯丁，息灭……類似例は多い。

地名の中の見慣れない字は，常用字に改めるべきである。この簡略化は国務院がすでに一部は批准してある。¹³⁾ しかし県，市クラスの名称だけでも，簡略化を必要とするのは，少なくとも百五十余はある。

現代人の姓名のうち，見慣れない字は常用字に改めるべきである。例：昊一浩，珏一决，晔一业，煜一玉，弼一必，祔一衣等。

その他混同を起こさない同音字は，合併してよい。たとえば辩，辨，辨→^{②-1} 弁（弁论，弁别，弁子）；韭菜→久菜；荔枝→力枝；花瓣→花办；付，傅，副，附→付^{②-1, ①}

9. 次のような連綿字は，その偏旁をとって簡略化できる。例：玳瑁，霹^{②-1} 雳，轱辘，澎湖→代冒，辟历，鹿卢，彭胡。また雾，露，霏，霈，霄等も务，路，淫，沛，肖等と簡略化できるはずである。¹⁴⁾

10. yuán と読む字には，元旦，公园，草原，演员，源泉，圆圈などがあるが，いずれもその用法が異なる。もしも元ですべてを代表できたらたしかに便利である。同音代替は，漢字が音標化へ歩むための準備的措置である。それは漢字の表音の要素をふやし音標文字化のために，思想的世論準備をしているといえる。

12) 肖業倫「圧縮通用漢字的数量」，同上書61ページ。

13) 『簡化字総表』（64年発表，'77.12印刷）の附録。

14) 浙江省天台県山河中学陳鳳鳴「同音代替是精簡字數的好方法」，前掲『漢字的整理和簡化』。

古代の勤労人民は、文字創造のときすでに、同音代替あるいは同音仮借の方法を用いている。甲骨文の中の其は、畚箕(𦉳)を描いて表わすのである。其は当時の意味は是否であって、其風は是否刮風を意味していた。元来其の意味はかなり抽象的だったので書けなかった。それであっさり畚箕を借りて代替したのである。¹⁵⁾

あるとき、火房で伏房にかえ、子細¹⁶⁾で仔細にかえることが提案された。文字は本来孤立的にあるのではなく、一定の言語環境の中で、文の前後とつながって用いられるものであるから、決して誤解を生むことはないのである。

11. 筆画の多い繁雑な字は、同音か音の近い字で代替する。例：鼓舞を古午に、装を庄に、泰を太に、嘉を加に、樊を凡に、齡を令に改める等。¹⁷⁾

12. 大衆の間では、師傅、副班長を师付、付班长と書くことは常となっており、何ら疑うものもない。搵・勺・虜・代・巴等は、それぞれ捡、杓、携、戴帶袋、芭芭靶等にとってかわっている。また麒麟、蝌蚪を𪛗𪛗、科斗と略す。代替法による簡略字は、『新華字典』で代替可能だと明確に規定している。搵(捡)_①、勺(杓)_①、扇(煽、搵)_①、滑(猾)_①、虜(携)_①、揜(摻)_①、夫(伏)_①、扁(篇、菹)_①等。介芽_①(芥菜)、且羔_①(蛋糕)、井文_①(警察)、于辺_①(街道)などの簡体字も、魯迅がまさしく指摘したように“文字は文章として使われたら、意味は明らかになるのである”。¹⁸⁾

13. 谷、跳午、兰球などで、谷は山谷とか谷物を表わすというのではなく、ただ gǔ 音のみを表わし、午は時間を表わさずただ wǔ 音のみを表わし、兰は色を表わさずただ lán の音を表わすだけである。多くの二音節語は、半音化を実行したらよい。芦—卢苇：庐—卢山，茅芦：泸—卢州：栝—黄卢树，顷—卢骨：鲈—卢鱼 (lú の例)

苹—平果 鳎鲱鱼—曼利鱼

15) 『光明日報』1974. 10. 25.

16) 香坂順一、太田辰夫著『現代中日辞典』ではすでに採用されている。

17) 南京鉄路分局西站文字改革座談会紀要「簡化漢字就是好」、『光明日報』1974. 6. 25.

18) 山東師範学院中文系七四級工農兵學員和教師「人民群眾簡化漢字的洪流不可阻挡」、『光明日報』1975. 8. 10.

韭—九菜 乌柏树—乌臼树
籃—兰球 滹沱河—乎陀河
鯨—京鱼 佝偻病—勾娄病
啤—皮酒 伽倻琴—加耶琴

二音節語のうち使用頻度の低い、派生能力の低い語素は、できるだけ同音代替を用いる。称陀(称砣)，房陀(房柁)，泥陀子(泥坨子)，斩新(斬新)，伐门(阀门)等。¹⁹⁾

②-1
14. いくつかの字のうち意味のへだたりのかなり大きいものは、そのうちのひとつで代替しても誤解は生じない。阿で啊(感嘆詞，語気助詞)にかえ、登で噎，蹬，鎧等に，曼で漫，谩，熯，塹，幔，蔓，纒等にかえる。また青廷，^{②-1}嬰武，里鱼等もその例である。

形体の簡単な字で，複雑な字にかえる。代，丹，相，杆，肖，序，才，背，决(戴郢襄竿萧绪裁悖绝)等がその例である。²⁰⁾

筆画は少ないがあまり常用でない字による代替の例：遺，御，逸，突(贻馭佚凸)等。

いくつかの同音字は，類と種の関係にあり，合併か包括が可能である。^①
一籽，撒—洒。

ある多音字は，一つの読音である字に代替し，別の読音は別の字で代替する。潦草，潦倒で liǎo は了を用い，潦を lǎo と読むときは沸で代替する例である。

少数の字は，現代字となっていない偏旁で原字に代替できる。例：葉(喋喋喋)，^{②-3}蜂(烽蜂峰逢)，肩(捐娟涓)等。

15. 字音から出発して，同音代替と簡略化，声符の改善を実行するのは，漢字が音標化の方向に向かうのに適合しており，大いに潜在力がある。²¹⁾ 斗，范，丑，午，元，付，令等。

19) 旅大市第一中学李航「多用同音代替簡縮漢字數量」，『光明日報』1975. 1. 17.

20) 胡双宝「同音代替是精簡漢字字數的重要途徑」，『光明日報』1974. 11. 25.

21) 徐青「從字音和字義的關係談漢字改革」，『光明日報』1975. 4. 10.

16. 午, 上 (緇), 连 (鎌), 且, 兰, 刁 (涓彫涓) 等。これらは簡体字が次第に単純な音節符号へと向かっており, もはやある特定のことばの専用でないことを示す。つまり代替できる範囲内において, 直接字音にたよって, 人々は字義を区別できるのであり, 字形によらずに字義を区別できる。同音代替は, 字数と筆画をへらす重要な道程であり, 表音機能を強める有力な手段でもある。それは望文主義 (文字面だけで意味を解釈する) の伝統的習慣を打破し, “文字表音”²²⁾の科学的観念をうちたてるのにも有利である。

17. 流言飞 (蜚) 语²³⁾, 挺 (鋌) 而走险, 名付 (副) 其实, 魑魅罔两 (魍魎) のような成語にも同音代替による簡略体は登場する。令, 元, 午, 子, 介 (界, 解), 太 (泰, 岱), 上等も日常生活でひんばんに使われる。その他地名, 人名等見慣れない字でも通用する。²⁴⁾ 专 (颯), 李 (蠹), 迟 (荏), 兰 (岚), 玉 (煜), 古 (馱), 滔 (弢), 械 (變), 玉 (聿) 等。

18. 黑板や大字報で井 (警惕), 江 (边疆) などをよく見かけた。姜 (薑), 将, 江, 苙, 缸, 疆, 僵, 疆, 纒 (輻) などは, いずれも同音であり江で代替してよい。²⁵⁾

19. 同音合併は, 漢字精選の主な方法である。干, 午, 兰などのように, 意味が混同しないとの前提のもとで, 二つ以上の同音字 (声母, 韻母が同じ) を一字にして, 一つあるいはいくつかの字をへらしていく。

1) 意味を表わす偏旁をなくす。糊, 葫, 蝴, 焮, 瑚, 酬, 醐, 瑚の八字は, その偏旁はみどころ異なる意味を表わしているが, 応用のときには, その異なる環境により, 偏旁がなくても事物の区別を明白にさせ得る。胡で代替する。²⁶⁾

2) 意味を表わす偏旁をかえる。陀, 沓, 圪, 醮, 砣, 跞, 駝, 駝, 柁,

22) 郝純, 項徽「加強漢字的表音功能」, 『光明日報』1975. 11. 7。

23) 『漢語成語小詞典』(第三次修訂本), 商務印書館, 1972年。「蜚は飞と同じ, 鋌は挺とは書けない。」

24) 高天如「簡化漢字要注意表音作用」, 『光明日報』1974. 12. 25。

25) 内蒙古軍区某部種志祥「繁雜字可適當地用同音字代替」, 『光明日報』1974. 5. 10。

26) 科学院「精簡漢字字數的一次嘗試」, 『光明日報』1977. 8. 12。

佗、𪗇の例。佗の偏旁の意味が明白でなく、この“𪗇”が限定する範囲もかなりあいまいだから、この字で10字を代表させる。できるだけ意味の不明な偏旁をもつ字を選んで、偏旁の意味の明らかな字に合併する。

3) 意味の近い字に合併する。同一音節中で、ある字は意味が近いか同じだと一つにできる。憤を忿^①に、瞰を看にする例。洁と契、吸と翳の字義は同じである。

4) 字形・字義の無関係な合併。豚と屯、蚤と击、午蹈、弁论などは、広範に流行して受けいれられている。また鏗鏘は吭呛に、²⁷⁾ 魑魅は蚩昧と書かれる。ここでは以前の視覚現象は破られたが、正しい読み方は以前にはできなかったことである。

以上具体例をひろってきたが、漢字の簡略化には、このように「省略の方法と変化の方法があると総括できる。」²⁸⁾ わけても同音代替法の運用は、文字を簡略化に向かわせる極めてよい方法である。それは字体の繁殖をコントロールでき、字数が多すぎないようにすることができる。元、斗、仇、谷、号、粘等は同音字あるいは異体字を採用したものである。丰、后、面、里、姜、松、丑、迭等もその例である。

複音節語単位の場合に、あるいは単独語で使用する文字でも、前後の関係で他との混同が起きない場合には、大衆は大胆に同音代替の方法を採用している。豆付、鸡旦、并干、车占、猪干などの例。²⁹⁾

II 形成文字

一つの形旁（意符）に一つの声旁（音符）を加えて構成する漢字は、形声文字といわれる。

1. 耀は元來形声文字であった。もしもその音符“翟”にもとづいて読む

27) 前掲『現代中日辞典』吭呛就是一口。(がふりと一口で食べてしまった)。

28) 張世祿『漢字改革的理論和实践』，文字改革出版社，1957年，49ページ。

29) 香坂順一「文字改革の背景」、『中国語』1975年，12月号。

と、zhēi か dī となる。そこで大衆は音符をかえて𪗇とした。また𪗇は筆画が多くて書きづらいので、音符をかえて𪗇と簡略化した。その他に表音作用を失った意符と筆画の多い音符を一緒にとって、新たな字を作った。驚を惊にした例である。音符として筆画の簡単な同音字がさがせない場合は、音の近い字を用い、廳を厅にしたりする例がある。³⁰⁾

2. 形声文字は、意味をもった図形と言葉として発音した音声とを組み合わせたものだ、と定義されるが、現在においては、すでにその機能を失っているものが非常に多い。たとえば、梅、音声要素の毎は今日「ばい」と読まずに「まい」と読む。中国語では mēi と měi の同音異調である。

持、江、忘などが形声文字の例であるが、ここにわが国の学習漢字996字(小学1～6年)を分類した表を一部紹介する。³¹⁾ 形声文字の多いことがわかる。

日本の学習漢字

象形	115
指事	7
象形指事	22 (久示など)
会意	138
形声	455
会意形声	259 (清現など)

われわれが使う何千という漢字は、その大部分がいわゆる形声文字である。渦を例にとれば、それは㇇と厶から成る。㇇は水に関することを表わし、厶は音を表わす。渦と蝸は音符が同じである。それは意味的にも同一の語であるはずだ。そう考えると、うずとかたつむりとは、巻いている水と巻いている殻とを表わし、まるく巻くという点で共通である。その共通点を厶が表現するとみることができよう。³²⁾ 形声文字は、漢字のワク内では表音字であるともいえよう。したがって読みやすく便利であり、簡略化の中でも大きな位置を

30) 張世祿, 前掲書, 14ページ。

31) 渡辺茂『漢字と図形』, 日本放送出版協会, 1976年, 68ページ。

32) 大野晋『日本語をさかのぼる』, 岩波書店, 1974年, 67ページ。

占める。

3. 音符を交換，簡略化する方法で，形体上から簡略化する。穢の音符を同音の西に，襯の音符を音の近い寸で代替する。壤→垠，爆→炸^①，道→刀，慢→怩^①，褥→衾，機→机などで，机は定着した正字である。

工場では人名を霁(霞)と書いており，仵，迂，吓^{②-2}，苜(假，遐，暇，葭)などと書けば，人々の歓迎をうけるかもしれない。彙，标のように，音符のある部分を省くのも簡略化法の一つである。

意符を交換，簡略化する方法で，形体上から簡略化する。願の頁を心で代替，愿とする，骺の骨を月の部分のみ残し肱とする。また猫が猫に簡略化できるなら，豺，狗，貉などと簡略化できるはずである。³³⁾

また筆画の多い，音符でない字を筆画の少ない音符の字にかえる。华(華)，毕(畢)，迟(遲)などの例である。

4. 意符をかえて，龠龠の二字を和諧にする。³⁴⁾ 褻を袖にする。意符，音符をかえて，饜を叨(tāo)にかえる。このような形声文字が初め社会で流行したときには，“俗字”と非難されたが，民間ではやったのは，まさにこれらの“俗字”であった。³⁵⁾

5. 誤解を招かないという前提のもとで，いくらかの形声文字の意符をとったらよい。³⁶⁾ 合仑(輪)，井(阱)，左(佐)，取(娶)，晃(幌)，胡(葫)，益(溢)など。とりわけ二音節語(単純語)は，なおのことこのようにしてよい。二字は分けられず，たとえ義符をとっても，その他の語と混同しにくいからである。丘引，末利(茉莉)，科斗，鹿卢，胡卢など。罔は古代には象形文字だったが，後に亡(表音)と糸(表意)が加わって，網となったが，56年「方案」で元の状況にもどったのは非常によい。

6. 漢字の80~90%は形声文字であるという。筆画をへらす問題はよく語

33) 撫順電器設備廠張勝林，前掲論文。

34) 『辞典』に採用されている。

35) 戴澧「從漢字發展談漢字簡化」，『漢字的整理和簡化』。

36) 青海省西寧市第一中學林西，前掲論文。

られる、表音の明確さの問題について考えてみよう。艺、忆、亿など、半分わかりさえすれば、声調をつけたらそれでよかった。ところが《容易读错的字》（北京人民出版社）の統計によると、読みちがえやすい428字（多音字は除く）中、形声文字は246字を占め57%以上である。³⁷⁾

こうした繁体形声字は、新しい音符にかえたらよい。汨、汨、忒、宀等。迂 qiān, 纤 xiān, 歼 jiān, 忤 chǎn の四字のうち、後者三字は千を音符とせずに合理的に簡略化できるなら、誤読をへらすのに大いに有利となるであろう。音を表わさない音符がわざわざしている例は、まだ少ない。破綻^{②-2}～結屹立^{②-2}～屹、停滞～沢等の例である。

7. 漢字簡略化の形声問題については、形体の簡単な声符を用いて形体の複雑な声符にかえて、声符の音標の正確さを求めることは、すでに主張されている。しかしたとえば前述の6. の中で、無理に歼を歺と書き、纤を纒と、忤を忤と書くとしたら、大部分の人はおそらく賛成しないであろう。歼纤忤などは、少数の人が一時の主観によって想いついたのではなく、広範な大衆の長期にわたる筆記を基礎として確定したものである。とりわけ国の正式の公布³⁸⁾を経て以後は、すでに広範な大衆によって受けいれられている。³⁹⁾ だからすでに正式に通用している簡体字においては、個別的な混乱をおこしやすい字以外は、いずれも声符の改変を急いではならない。

紅、江、河、伯、英などは、その声符の音声記号が正確か否かを問わず、再度簡略化しなくてよい。一般大衆が熟知しているからである。優一尢の例。56年「方案」のころまだ公布していないのに、多くの大衆が使っていた例：苙^①、朴^①、またある字のむつかしい部分を簡単な符号にかえて𠂇^①、𠂈^①などとした。𠂇はもう形声ではない。

形声文字の形符（表意符号）について。單の義符四、都の義符卩が岡と巴

37) 貴州省貴定師範学校徐成森「浅談简化漢字的形声問題」、『漢字的整理和簡化』。

38) 1956年公布の『漢字簡化方案』、それぞれ第二表、第一表の脚注、第一表、第一表に登場する。

39) 穆奕「对具体问题要做具体分析～也談简化漢字的形声問題」、『漢字的整理和簡化』

から変化したものだということは、今日あまり知られていない。簡は元来竹簡を指すものだったことを知る人も少ない。形声字の義符は、すでに表意作用をなくし、ある字の形体と他の字とを区別するしるしにすぎない。あるものはさらに簡単な符号に改めることができる。簡、答は簡^{②-2}、荅に、焦、照を焦^①、照に書ける。

余った義符はとり除ける。梁（樑）、疆（疆）の例。余分のようでもとり除けないものもある、暮は本来莫（莫）と書いた。現在莫と暮は、二字となり同音でなく、同義でもない。だから暮の下部の日は残すべきである。

8. 声符の筆画が多いと、筆画の少ない同音か近い音の声符で代替するか、あっさり簡単な符号で代替する。辺、鉦（鎮）、垠か垠^①（壤）、汙、叮、釘^①、志、勛（勤）などの例。⁴⁰⁾ 字の音、形にもとづいて、元の字の部分的筆画を改める。しかしその字の元来の特徴は残すやり方である。秬、𪔐、弗（費）、𪔐^①、𪔐^{②-3}、𪔐^①、𪔐（糧）の例。

9. 偏旁の数をへらし、偏旁自体の筆画を簡略化するために、多くの方法がとられている。あまり常用でない段豸闌寮雍を下、豸、兰、了、用で代替し、現代漢字でその意味の区別しにくい偏旁ネネ、氷小、𪔐^{②-8}、𪔐^{②-8}等をそれぞれネ、小、𪔐^{②-8}に合併する。常用で筆画の多い偏旁鬼麻雨其里黄等は、鬼、麻、雨、六、𪔐、黄等と簡略化する。菜墙懂等はそれぞれ芽、垌、𪔐等と書かれる。形声字の声符の音声記号の正確さを考え、蹈稻は𪔐、𪔐とし、陡は𪔐と略す。⁴¹⁾

10. 形声文字の声符を簡略化するか改善して、𪔐、沟、𪔐等とする。形声字の声符簡略後、類推の方法を用いて、この声符の使用頻度を高め、漢字の音標作用をふやす。辽、疔はすでに公布されており、打、𪔐、汀、灯等というふうには大衆は簡略化している。また字形から着目して、いくつかの難字をひき続き簡略化することもできる：𪔐、𪔐等は相当に流行している。⁴²⁾

40) 『光明日報』1974. 6. 25.

41) 同上, 1975. 8. 10.

42) 同上, 1975. 4. 10.

11. 義符をとり声符を残すことは、元の形声字を改造し、新簡化字の表音機能をます措置の一つである。芭芭粑→巴、叮叮釘釘^①→丁、筐诘唾唾框^{②-1}→匡とする。大多数の義符は、すでに表意作用を失っている。たとえば彩虹と虫、头脑と月とは直接の関係はない。多くの形声字において、義符は単純に意味を表わすというよりは、むしろ同時に表音作用を果すといった方がよい。⁴³⁾

義符省略という伝統的方法があるが、形声字の簡略化に義符を残して区別を示す。この形声字がもう一つの形声字の声符に充当するときは、その義符を省略してよい。例：意は忍と簡略されるが、義符の心は残すべきだ；ただし類推の方法によって疔、臃(癰、臃)と書けば、心は省いてよい。同様に、董^{②-2}→苳^①、懂^{②-2}→恂、遣^{②-2}→次、讒^{②-2}→次と簡略できる。

義符をとり除くのは、さっぱりした措置であるが、形声字によっては、そのことによって字義の混乱を生むものもある。だから筆画の簡易な義符で筆画の繁雑な義符にかえるか、繁雑な義符を象徴的符号にかえるかである。豺→犴、答→荅が前者で、焦、点、然、熟、照等の下の四点を横一に改めるのが後者の例である。

12. 声符を改める方法の一つは、筆画が簡単で表音の正確な声符でもって、筆画の繁雑でしかも表音の不正確な声符に代替することである。その例：斗、结、葶^{②-2}(陡、旋、蔕)等。

その二は、ある(全部でない)同音異形の声符を形体の簡単で、表音の正確な声符に合併することである。⁴⁴⁾

儒—伛 ^①	} 需, 辱を入に合併 (②-2では収としている)
褥—収 ^{②-2}	
僚—佇 ^①	} 寮, 卯, 麇を了に合併 (②-2では了となっている)
聊—聆 ^{②-2}	
廖—序 ^①	
震—掣 ^{②-2}	

43) 同上, 1975. 11. 7.

44) 同上, 1975. 11. 7.

瞎—吓①	}	暇，害，夏を下に合併（②-2では吓としている）
厦—吓②-2		
篱—力②-1	}	离，荔，利，乐を力に合併
荔—芳①		
犁—力②-1		
砾—力②-1		

方法の第三は、いくつかの表音が正確で、筆画の簡易な声符を用いて、表音の不正確な、筆画の繁雑な元の声符を分化させることである。

蔡—才	}	祭を才と又に分化させた例，
察—又		

元からある形声字を改造するだけでなく、元来その他の方法で構成した漢字を形声の方法で改造した例もある。

韭—艹①	疑—似②-2
盟—泆①	毅—彳②-2

13. 多くの形声字は、声符の音符作用によって、字音上一つから他のものを類推でき、音を区別するのに便利である。夫から肤がわかるような例。こうした表音の便利さによって、形声字の発展はこれまで比較的是やく、またその占める率も大である。漢字の中で、形声字は十中八九を占める。恣、忍、汎、和、栲(椽)等は、形声簡化を利用した例である。これらの字の声符は、筆画の少ない常用字を採ってあるのみでなく、音声記号も正しい。(声調は一致しないものもある)。⁴⁵⁾

14. 形声字から着目して、新簡化字を正しく読ませる。感—恣、原—阮^①、鼓—婁、厦—吓等と簡略化し、それは干、元、古、下などの偏旁から読むことができる。⁴⁶⁾

15. 75年12月、四川省大邑県蔡切八大隊小学のある人が「形声簡化字好」という一文を書いている。たしかに形声の方法で簡略化される字は、その数

45) 同上, 1974.12.25.

46) 同上, 1974. 6.10.

が多い。汉, 忍, 汜, 忌, 尻, 宥等である。⁴⁷⁾

16. 形声文字の原則に従い, ごく簡単な音符に入れかえられたいわば「新形声文字」⁴⁸⁾を再度とりだしてみる。その例: 达, 华, 机, 极, 价, 讲, 进, 惊, 认, 让, 远, 肤, 亿, 忆, 块, 怜 (憐), 疗, 积, 拟など。

III. 民間略字, 会意字等

中国文字改革委員会(当時)は, 1956年の「漢字簡化方案」の段階で, 合計515字と54種の偏旁の簡略化を公表している。その簡略化の原則は, 結局次の六点⁴⁹⁾になるようである:

1. 宋元のころより民間で流通してきた略字は, なるべく広く採用する。
 2. 「新形声文字」
 3. 簡単な組み合わせによって, 字画の少ない会意文字を作る。「新会意文字」, その一部は民間の作字である。
 4. 偏旁をとり去って, 簡単な古代の文字を復活させる。
 5. 類推をなるべく広く働かせて, 似た部分はすべて同じ形に略す。
 6. 草書体にくずした字を採用する。
1. の例: 办, 备, 边, 坟 (墳), 戏, 当, 动, 敌, 点, 过, 归, 战, 区, 会など
2. の例: (省略)
3. の例: 队, 丛, 尘, 阳, 阴
4. の例: 飞, 广, 乡, 卫, 井, 关, 宁, 灭, 众, 气, 外, 个, 画, 丰, 与, 医, 丽, 夸, 节, 礼, 朴, 无, 亲
5. の例: 义, 仪, 叹, 艰, 难, 汉, 万, 迈, 历, 励, 坏, 还, 环, 兰, 栏, 烂

47) 徐成森「關於“再造新字”的問題」, 『光明日報』1977.12.2。

48) 藤堂明保『漢字の知恵』, 徳間書店, 1965年, 267ページ。

49) 同上書, 265ページ。

6. の例：长，东，发，买，卖，仄，亚，书，质，伤，乡，々，々，

1. 电は甲骨文の中で、もともと雲の中のいなづまの象形である。上に雨を加えたのは後のことである。午と舞は、同音同声調であるのみか、輪郭が似ている。午は舞の最初の二画に末尾の二画を加えたようなものである。队伍は人が組むもので、隊の右側の最後の二画は人に似ていないだろうか。停の右側最後の二画は丁のようである。伶俐は今あまり使わないし、停は常用字だから、大衆は丁で停に代えるよう求めた。最もよく使う字の筆画を最も簡単にする、これが大衆の求める原則である。鞋^①（鞋），汉（漢），难（難）等。莫と革の旁は、字形が近く形体の似た構造を一つの構造に同化、統一したものである。⁵⁰⁾

2. 簡化字と簡化字の偏旁を利用して、引き続き漢字を簡略化する。⁵¹⁾《簡化字総表》第三表の簡化字1,754字のうち、たとえば僕，撲は仆，扑と略される。それなら当然のこと濮，璞；蹶，鑊も汴，卦，卧，卧，卧と簡略化すべきである。また据，剧が現実存在するのだから，遽，釀も遑，醒と簡略化してよい。

3. 专，传，转は、草書楷書化の方法による。糞，夺，电，医などは、元の字の輪郭あるいは特徴を留めた方法による。大衆の間で広く流行している百，夕等は、この方法による。簡単な筆画あるいは一字で、ある字の繁雑な^①部分に代替させるのが符号化である。队，汉，币，风，丸など。

また“又”一字で多くの複雑な構造を代表でき、筆記に便宜を与えている。难，叹，欢，对，轰，权，劝，凤，邓，观，鸡，艰，仅，树，戏，圣，双等の例。二つ以上の筆画の簡単な字を意符として一字を構成するのが会意字である。尘，众などをみると、小土が尘となり、三人が众をなすとの意味合が含まれているようにみえる。⁵²⁾

4. 類推の応用範囲を広げる。⁵³⁾ 文字改革委員会（当時）等は、64年の「簡

50) 韓紫竹「依靠群衆簡化漢字」、『漢字的整理和簡化』。

51) 前掲書、『漢字的整理和簡化』，11ページ。

52) 同上書，15ページ。

53) 同上書，18ページ。

化字についての合同通知」の中で「ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ」の四つの偏旁を除いて、その他の偏旁が独立して字となるときには、同様に簡略化すべきだと述べている。例：搨，练，炼はすでに簡略化されており，棟棟棟を东，栋，诨と類推できる。拦，栏，烂があるから，拦，逆，烂，钡などと簡略化できるであろう。

化学元素の钷⁵⁴⁾には、特定の言語環境がある。跃より，耀曜→跃跃^①。亿亿より，臆→臆^①。疗辽から類推して，打，灯，伥，叮，汀，疔，钷などと簡略化する。なお钷は，脚镣の钷，化学元素钷 (No. 44 Ru, liǎo, Ruthenium) と钷钷儿的钷を兼ねることになる。厂广产などから疔^①が類推され，粪奋夺などから類推して，鼻，翼は鼻^①，翼となる。

漆一沘，酒一沬，霞一雫，厦一厦，整一正，盒龄预一合令予などは，形体の類化，表音要素の類化である。また簡化偏旁の類推と象徴的筆画の運用も考えられる。(言を讠に略すことにより約300字簡略化される) だが類推は，どこでも通用できるのではない。同じ寺(sì)でも chí(持)，dài(待)，tè(特)，shī(詩)，zhì(持) …を表わす；同じ chī 音で也(池)，寺(持)，离(魑)多(侈)，台(笞)等の形体で代表される。

漢字の形体は，時間の推移につれて変化し，その数は，時間の流れにつれて増えている。正しくない類推は，漢字形体の混同をもたらしのみで，文字系統の混乱をもたらし。层(層)から類推して増を堀と略すとすれば，それは誤りである。堀はすでに壇などの簡体字だと規定されている(「方案」第一表)。

5. 《説文》の中の一部の古文や奇字は，戦国の時期の簡体字である。禮は古文では礼とし，棄は古文で弃(「方案」附録39字の一つ)とした。また無は奇字で无とした。これらの現代に通用している簡体字は，六書の道理では説明できないので，説文はそれらを奇字とした。これらは後世よく流行した。⁵⁵⁾

6. 淡，伋，宥，拈，ㄣ等は，大衆の間で流行している。人名・地名の中で見慣れない字があるが，常用字でできるだけ代替すべきである。例：郟 gào,

54) 『新華字典』钷 pō, No. 84 Po Polonium.

55) 前掲書，『漢字的整理和簡化』，22ページ。

瀛 yíng, 毫 bó, 贛 gàn, 黔 qián など。漢字簡略化の仕事は、形体・数量ともに簡素化し、次第に定形化・定数化をなしとげる必要がある。植字工程の機械化実現のためにも通用漢字は5,000字以内に圧縮しなくてはならない,⁵⁶⁾といわれる。

7. 異体字は、50年代に810組、1,865字のうちから1,055字がすでに廃棄された。だが現在なお1,000字近くが通用しており、これも引き続き整理しなくてはならない。また現代漢語で不用の言語は淘汰されてよい。今では誰も貧吃を tāotiè の饜饉字で、溜込を dié xiè の蹠蹠字で書くことはない。成語の鋌而走險の鋌でも、多くの人は挺と書いている。

1956年から65年にかけて、國務院は県以上の見慣れない地名を37改めた。だが多くの地名は、なお改変の必要がある。安徽の bǎo(亳)県、山東の chí(莒)県、四川の kuí 県など。また5,000の非常用字の中には、数百の姓名専用字がある。敷 jiǎo, 元 qí, 煜 yù, 鑫 xīn 等。大衆がすでに肖(蕭), 代(戴)などと代替している例もある。

自然科学の術語にも難解な字があり、化学の名詞だけでも500~600字ある。水素元素の同位素、気 piē, 氛 dāo, 氙 chuān など、なんとつかみどころのないことか。

また動植物の名称も一定の比重を占める。大衆は偏旁をとり去って、波菜、里鱼、嬰武、桂鱼^①などと書いている。二、三の実例をあげる。74年3月、広州と天津におけるレシートからひろったものである。

汎……第一表

夕……第一表

考……烤を略している。

旦……第一表

热……第二表の8

孚……各となれば第一表だが、これは類似の例。

56) 同上書、41ページ。

擬声語の数も多い。純粹に音声を表わす字なら、漢語拼音を普及させるという目標で、直接に拼音で代替してもよい。⁵⁷⁾

8. 表意の偏旁という迷信を打破し、いくつかの偏旁を合併し、いくつかの偏旁をなくして、漢字の字数をへらすことができる。例：莉(茉莉), 俐(伶俐), 痢(痢疾), 鬚(鬍鬚), 狷(捨狷) → 利; 筐诤眶框 → 匡; 首宿 → 目宿; 丘引; 科斗; ネネ → ネ; 卩卩 → 卩。

多音節の外国語を単音節の中国語に翻訳すると、化学におけるようなわかりにくい字が出てくることがある。砒—钷 fán, 砒 ài (No. 85 At Astatium) — 鍇 āi, 碲 dì—鐳 dī など。多音節の外国語は次のように訳される: Gallium 镓, Ruthenium 钨, Tellurium 碲等。外来語は、複音節語に翻訳し、できるだけ常用漢字を用いるかまたは漢語拼音で書くとよい。⁵⁸⁾

9. 一定の範囲内で、拼音による漢字の代替は可能である。⁵⁹⁾

- a. 擬声語と感嘆詞。嘿哟~heiyo, 咩~mie, 姆~m, 啾~hm, 咕咚~gudong。
- b. 外国の人名, 地名専用字の音訳。妮 ni, 娜 na, 娅 ya, 莎 sha, 嘎 ga, 喀 ka。
- c. 音訳外来語の専用漢字は、拼音か原文通り転写する。咖啡~kafei, 吗啡~morfin, 泵 pump, 熵~entropy, 镳 (No) ~nobelium, 钋 (Po) ~polonium, 钆 (Ga) ~gadolinium; 有機化合物, 萘~naftalen, 吡啶~piridin, 吡喃~prian, 脘~amidin……。
- d. その他の見慣れない字とか難字の例: 盍晃~gala, 尴尬~ganga, 疙瘩, 纭绌~geda, 轱辘~gulu, 碌碌~liuzhou, 鞞鞞~wula。

10. “三大革命運動”の中で現われた新簡化字の例⁶⁰⁾: 形声字, 同音代替, 草書の楷書化の方法や類推が採用されている。照妖, 忍愿, 付品, 故舅, 沝卮, 汀亩, 兰球窗, 尻子担, 仄宇(儒家), 垂奎(重整), 址, 钷, 汗, 疔, 置,

57) 同上書, 46ページ。

58) 同上書, 51ページ。

59) 同上書, 63ページ。

60) 武漢無線電接插件廠労働者劉欣耕「文字是勞動人民創造的」, 前掲書『深入批林批孔促進文字改革』。

宀(宣), 宀(演), 尸, 艹, 冫(袋), 冫, 井(警)。

11. 農民の常用字の中で、書きにくく、覚えにくい字があり、簡略化が急がれた。農業用具：犁, 耙, 耩, 鋤, 擔, 碌碡, 轆轤, 耨枷等, 農業生産：農耕, 耨草, 種麥, 耩壟, 積糞, 摔穗等, 家畜家禽：騾, 馬, 驢, 猪, 貓, 鷄, 鵝等。勤勞人民は、その必要性から多くの簡体字を創造した。⁶¹⁾ たたとえば、衣, 耩, 连加, 秧麦, 粮, 积糞, 驴, 鸡, 铁铲, 芽, 物, 和, 奎……。

12. 過去の反動的な支配者は、“愚民”たちの創造と革新に対して、輕蔑し、打撃を与え、否認しそして占有した。しかし簡体字, 同音代替字は、民間で大量に出現し、社会の底辺において流行した。これは唐宋以来の漢字発展の主な内容である。人民の創造した簡体字の例は、国, 献, 辞, 趋, 孛, 妳(nǚ)などである。すでに廃止された古字を利用した例もある：蚕, 虫, 无(無)等。⁶²⁾

13. 簡略化は、漢字発展史の全過程において、終始主流の地位を占めてきた。殷周の銅器鑄造, 金文銘刻の奴隸労働者, 秦代に民間で普遍的に流行した隸書の広範な創造者, そして下つては南北朝, 唐の写本の書き手, 宋元以来の木版彫刻の労働者および歴代の文字を使った下層の大衆, 彼らは大量の簡化字を創造し、言語記録としての漢字の機能を高めた。多くの簡化字は今日に至るもそのまま用いられている：⁶³⁾ 问, 宝, 时, 数, 盖, 泪, 来, 仓, 刘, 园, 无, 灯, 炉, 礼等(大部分が56年「方案」で採用された), 枚挙にいとまがない。

14. ある人の統計によると、太平天国の公文経籍に現われた簡体字は、100余ある。土地革命戦争と抗日戦争の時期、簡体字はまた革命根拠地と解放区の軍隊・人民間で非常に流行した。今使っている拥护(擁護), 干部等の字は、解放字である。⁶⁴⁾

61) 山西省臨汾県魏村公社和村大隊張庚西, 魏憲章「批判孔孟之道繼續簡化漢字」, 同上書。

62) 王伯照, 前掲論文, 同上書。

63) 南京大学中文系語言專門組「“倉頡”就是群眾, 群眾就是“倉頡”」, 同上書。

64) 北京大学中文系裘錫圭「人民群眾是漢字的創造者和改革者」, 同上書。

15. 大衆の漢字簡略化と漢字の規範化は、本来一組の矛盾であり、対立物の統一である。新簡化字の出現は、勢いのよい潮流のごとく、誰たりとも押えることはできない。汜, 凹, 难, 帄, 羔, 付(腐, 傅, 副), 窗, 仗, 另(零)等は, ある一地区とか一業種に限らず, 広範な大衆的基礎ができている。

大衆が創造する, そこには不可避的にいくらかの問題も現われるであろう。ある人は増を坵とし, ある人は坛とする(ところが坛はすでに壇の簡体字である)。大衆の漢字簡略化は, 規範化の基礎であり, 規範化は大衆の智恵を集中し, 文字統一を促進する必要条件である。当面は文字改革部門の審議決定作業が追いつかない⁶⁵⁾といえよう。

16. 外国語のように, 印刷体と筆記体を決めよ, との提案もある。高一^ㄅ事一^ㄅ, 行一^ㄅ, 身一^ㄅ, 青一^ㄅの例。また特徴のある部分を取り, その他を省略する例: 部一^ㄅ, 面一^ㄅ, 雪一^ㄅ, 街一^ㄅ, 筆画の少ない古体字, 異体字, 俗体字を借りて, 筆画の多い字に代替する例: 国一^ㄅ, 两一^ㄅ, 童一^ㄅ。

17. いくつかの簡略化法があるが, いずれは規範化しなくてはならない。展→尸巨屈仄, 察→宀一宀の例。一つの簡化字が異なるいくつかの字を表わす例: 芷一箱, 藏, 枋一楼, 柳。

字を見て音のわかる字は, 最も覚えやすい。たとえば, 汜, 汎, 沃, 帄, 芄, 芽, 初, 出(儲)等。地方語によって簡略化されたが, すでに全国で通用しているもの: 姪, 拵等。規範化は, 語の全体から考慮しなくてはならない: 兰球, 兰墨水, 兰花, 木凹, 申虫, 干^ㄅ, (苜肥)等。また丰收午, 儿全团などは, 大衆がかなり, 公認する合法的地位を得ている。規範化には, 横書きの便利さを考えるべきである。糞→糞, 鼓→鼓か故あるいは古で代替する。

18. 常用字は簡略化する。丰, 农, 谷のように, 拵(鋤头), 物(犁田), 沃(灌水), 连(镰刀), 且(鸡蛋)と簡略できる。鼎, 稼, 椅, 稻, 糠, 插,

65) 『光明日報』1974. 4. 10.

66) 同上, 1974. 6. 25.

穂，割，磷酸等は，簡略化が待たれている。⁶⁷⁾

19. 貧農，下層中農が始めて作った新簡化字。橄欖一杆兰；藍一兰；檻，
瀾一烂；鏢一釘；隆，窿一咙；童一仝；盞，詹一占；滯一止；鑄一炷，薈，
蒿一荳^①；儒一仞；椽一栊；彝一彛等。これらは生き生きとした生活の息吹き
にみちており，覚えやすくて書きやすい。⁶⁸⁾

20. 包孕字の整理による字数精選。⁶⁹⁾ 包孕字(包含字)の数は多く，《新華
字典》をざっと見ても160余組ある。このうち一種は，甲字が一字音のみで乙
字の字音と同じもの。捺捺類のようなもので，同音包含字とよぶ。

茧趼 jiǎn：手脚上的老～；蚕茧的茧不作趼。

勺杓 sháo：～子，铁～；一升的 $\frac{1}{100}$ 的勺不作杓。

滑猾 huá：狡～；光滑，滑冰的滑不作猾。

岐歧 qí：～途，～视，岐山的岐不作歧。

凌凌 líng：欺～，～空；水凌的凌不作凌。

麻麻 má：～木，～痺，～风；大麻，麻子的麻不作麻。

虏擄 lǔ：～掠；优待俘虏的虏不作擄。

搀掺 chān：～杂；搀扶的挽不作掺。

瓊瑰 guī：～丽；象玉的石的瓊不作瑰。

甲類字は，一般に大衆が習慣的に使っているものであり，筆画もいらか少
なく，意味も明確である。よって甲類字を残すべきである（同音包含字は50
%以上占める）。だが特殊な情況もあり，瑰は《廣韻》でも言われているが，
乙類字を残す。

もう一種は，甲字にいくつかの字音があり，乙字とその中の一字音と含ま
れる意味が同じもの，扇搨煽の類のようなものを異音包含字と呼ぶ。

A. 夫⊖ fū ⊖ fú，伏 fū：民～，拉～。

划⊖ huà ⊖ huá，搯 huá：～拳，

67) 同上，1974.10.10。

68) 同上，1974.9.25。

69) 同上，1975.9.26。

没 ⊖ méi ⊖ mò, 歿 mò : 病~,
 浆 ⊖ jiāng ⊖ jiàng, 糶糶 jiàng : ~糊,
 卒 ⊖ Zú ⊖ cù, 猝 cù : ~不及防,
 作 ⊖ zuō ⊖ zuó ⊖ zuó, 做 zuò : ~工, 制~,
 吱 ⊖ zhī ⊖ zī, 嗞 zī : ~~叫,
 纹 ⊖ wén ⊖ wèn, 罍 wèn : 盆裂~,
 泡 ⊖ pào ⊖ pāo, 疱 pào : 水~,
 脬 pāo : 一~尿,

B. 沈 ⊖ shěn ⊖ chén, 沉 chén : ~没,
 槛 ⊖ jiàn ⊖ kǎn, 坎 kǎn : 门~,
 勾 ⊖ jù ⊖ gōu, 勾 gōu : ~引,

A類の中で乙字は見慣れない、筆画の多い字が多く、甲字を残す（総数の26%を占める）。B類の乙字は常用字である。だから乙字の読音と意味を残すべきである。この作業のよい点は、異読を簡素化できることであり、異体字の整理作業とも結合できる。沈没は沈没とは書かず、沈は沈阳(Shěnyáng)などの地名か人名のみに shěn として用いられる。

21. 正式に公布された簡化字は、大衆の間に深く根をおろし、人民大衆の創造した新簡化字は、雨後の筍のように成長している。⁷⁰⁾ その例：学悛，奎风，屹立，井畅，丸炭，质舅，胡卢，拈种，沘口，难耗，黄沆，玻功。また筆記の際には、次のような字が大量に使われている：荆俭，年令，^① 埶没，比亩，午叻等。

22. 漢字の筆画をへらす問題と同時に、字数をへらすことは、極めて重要であり、「当面の漢字簡略化の重点たるべき」⁷¹⁾だとも言われる。中国科学院は、《新華字典》(71年修訂重排本)の7,000字近くを印刷・植字・刻字関係者の協力のもと、3,100余字にへらすという最初の試みをしている。

とりわけ自然科学分野における新造字の問題は、その精選・簡素化が強調

70) 同上, 1975. 8. 10.

71) 同上, 1977. 8. 12.

される。ところが同音代替によってこれを解決しようとする、次のような混乱も発生する。铀字のようなものは話ことばでは、使いにくい：⁷²⁾“这矿石里有铀，每天产铀一吨。”等は、铀(No. 92 Uranium)なのか油なのかまぎらわしい。こうした例は、別途方策を考える必要がある。

字数の増加をくいとめる抜け穴⁷³⁾はいくつかあるが、まず現実に通用している字があれば、別に新字を作らないことである。たとえば艗、舢、舥は、船首、船中、船尾でよい。⁷⁴⁾次に、意味の近い字で代替できるなら、新字を作ったり、古字を調べたりしなくてよい。例：gēda はすべて咯嗒でよい。その三、意味が混同しない情況のもとでは、同音字で代替する。そして感嘆詞、連綿詞などのいくつかは、拼音字母で代替してよい。《阿Q正伝》がその例である。見た目になじまないと心配するにおよばず、慣れたらなんでもないかもしれない。

郭沫若は、72年《紅旗》第四期⁷⁵⁾で述べているが、文字改革の仕事に従事する人は、民間の簡化漢字にたえず注意し、とれるものはとり入れ、随時おし広めるべきである。だが大衆から遊離した造字は、当然だめである。毛沢東も「党八股に反対しよう」⁷⁶⁾ (1942. 2) で、互、𠄎(工、人)を引合に出して勝手な造字に反対している。

IV 結びにかえて

1950年代後半から77年末にかけては、政治的、経済的そして思想面でも大

72) 同上, 1977. 11. 18.

73) 同上, 1977. 12. 2.

74) 同上, 1977. 11. 18.

75) 郭沫若「怎樣看待群衆中新流行的簡化字？」(1972. 3. 23)。『紅旗』編集部宛の遼寧省本溪市炭鋸労働者、崔振声の質問に対し、同誌は郭沫若氏の返事を掲載した。

76) 『毛沢東選集』第三卷，外文出版社，1968年，74ページ。「党八股の第三の罪状は、的なくして矢をはなち、対象を見ずである。」スローガンを書いた人は、“工人”をこのように城壁に書いているが、多分民衆に見せまいと誓いをたてたのだろう、と毛沢東は皮肉っている。

きく左右にゆれた時期であった。その時点における政治の動向は、文字改革という重大な国策にも当然影響をおよぼす。

竹内実氏によると、⁷⁷⁾ この期間は、百家争鳴展開とひきしめ、二つの路線のせめぎあい、文化大革命、文革派對脱文革派の抗争、毛沢東以後とじぐざぐの政治路線が描かれる。鄧小平氏2回目の復活('77.7)直後だが、第二次漢字簡化方案(草案)はそそくさと公表されたのであろうか。それ以降のことについての委員会の対応をみると、そのようにしか思えない。

一度出されたものが正式には、どんな形で姿を現わすのか期待も大きかった。しかしもちろん中国内外の不安や反対も少なくなかった。今年になって、教育部などと同様、文字改革委員会も新たな任務を担うべく、機構の名称が変えられた。国家語言文字工作委員会という國務院直屬の機構である。そこでは21世紀に向けて言語・文字について、研究と活動が真剣に進められるであろう。

今年早々、55年以来30年ぶりの第二次の全國語言文字工作會議が開かれた。第二次漢字簡化方案(草案)の問題も含めて、漢字簡略化のことは未解決であった。さらに簡略化を進めるか、これまでにして使用停止するか、二つの異なる意見があったし、今後もあり続けるであろう。

64年に「総表」として出された2,230余の簡体字は、たしかに便宜をもたらした。それ以前の「平均字画は15.6画だった。簡化字は繁体字に比べて一字あたり平均5.3画へった。」⁷⁸⁾ 平均10.3画という筆画は、当初の目標に近いものだといえる。しかし簡略化された字は、必ずしも必要なものばかりがされたのではなく、必要だが着手されなかった字もあるようだ。

「138字は構造がむつかしく、筆画が多すぎることにより、コンピューターの15×16ドットからなる240ドットのワクに入力することができない」⁷⁹⁾これらの字は簡略化がさし迫って必要とされるそうである。

77) NHK市民大学『現代中国への視点』、1986年1—3月、36ページ。

78) 余章瑞「當前語言文字改革問題」、『人民日報』(海外版)1986.2.13。

79) 同上紙。

簡略化が不必要だとする考えは、簡化字がふえれば、ますます負担がふえる、ということによる。ひき続き簡略化すると、既存のまた今後出版予定の大型の辞典・字典・百科全書の再版やコンピューター入力方式の問題などのため、大きな浪費や困難が生ずるといふ。

理論的には合致した部分があるにせよ、そしてたしかにいくつかの簡略字は、ならわしによって実際に使われていて（約定俗成）も、文字応用の安定性を考慮にいれて、今回は使用停止になったようである。簡略化に問題を含んでいるのであれば、それはむしろ棚上げにして、より現実的な課題にとりくむのが上策ということになった。

言語文字は発展するものである。その発展法則にしたがひ、自然にさからわず、情勢に応じて有利に導くのでなければならず、また相対的な安定性がなければならない。文字改革は成功を焦ってはならず、今後の漢字簡略化はより慎重で危げないようにしなければならない。

30年来の言語文字工作を総括する会議が開かれた今日の状況は、まさに新段階を迎えたといえよう。当面の主要な任務として『光明日報』の「評論」⁸⁰⁾は、次下の四点をあげる：

1. 中国語の規範化の仕事を立てに行ない、共通語を大いにおし進め積極的に普及させる。
2. 現行の漢字を研究し整理し、関連する基準を制定する。
3. 中国語漢字情報処理関連の問題を研究し、言語文字の基礎研究と応用研究を強化する。
4. 社会調査と社会諮問、サービス活動を立派に行なう、等。

これらの任務を達成することは、そう容易ではない。指導者と民衆との信頼感による奮闘がなければならない。最近、繁体字や略字、誤字の乱用がひどく、容認しがたいところまできているといわれる。それゆえに、中国語の基本用字表や常用字表を定め、漢字の筆順、部首、構造などの規範化も急がれている。

80)『光明日報』1986. 1. 7.

文字改革の最重点課題が共通語の普及だとしても、漢字の問題や漢語拼音（ローマ字つづり）の普及の問題などもあわせて進めなければ、その実はあげられないであろう。

なにはともあれ、簡略化停止や共通語の普及が委員会で決定された以上、十億一丸となって進むべく、宣伝教育がなされるであろう。そのことは「四つの現代化」建設を促進こそすれ、後退させるものではないはずだ。漢字の簡略化は、国家の大事業が一応の成果を生んだ時点で、再度検討されるのかもしれない。そのときには拼音の問題もまたいくらか前進がみられるであろう。

本稿は、1958年からの“大躍進”に準えて、たとえ2%から3%の成果であれ、全面否定の愚挙にでないようにと、過去の先輩たちの思い入れをいくらか挙げて、考えてみたものである。